JSURP News ‘211018

発行：Jsurp 日本都市計画家協会
https://www.jsurp.jp/

今週の News
1. 第 14 回日本都市計画家協会賞について
2. 全まち 2021 真備分科会の報告
3. 全まち 2021 糸魚川分科会の報告

■第 14 回日本都市計画家協会賞について

1．第 14 回日本都市計画家協会賞の構成

◇日本まちづくり大賞：1 団体、賞金 5 万円

優秀まちづくり賞及び支部賞を受賞した団体の中から、選考委員会で 1 団体を選考

◇優秀まちづくり賞：３団体、賞金各１万円

応募団体は WEB 上でプレゼンテーションを行い、選考委員会により優秀まちづくり賞団体を選考する。活動分野、テーマ、地域を問わず、優れた活動を実践している団体を見出す。

書類審査段階で、家協会会員が事前に聞き取り調査を行う。

◇支部賞（4 団体)、賞金各１万円

４支部（北海道、横浜、静岡、福岡）のエリアにおいて優れた活動を実践している団体を各支部で推薦。

◇全まち特別賞

全国まちづくり会議 2021 東北の実行委員会において、推薦・互選いただき、被災地域の復興まちづくり団体の業績を広く表彰する。

2.選考スケジュール

- 応募締切：2021.09.30
- 事前ヒアリング：2021.10.01～10.17
- 1 次審査：2021.10.20
- 公表、通知：2021.10.21
- 団体プレゼンテーション：2021.12,04
- 選考委員会: 12 月 4 日（土）16：00 から
- 結果公表、通知：2021.12. 7 （火）（なお、大賞受賞団体は 2022 年総会でプレゼンテーションの予定）

◆第 14 回日本都市計画家協会賞応募団体一覧

応募団体名		応募活動名	応募活動概要
1	team Makura showcase	地域のきっかけ創り～Makura showcase 地域を映しだすショーケースに	北海道幕別町。国道に面した旧木工場をリノベーションして地域住民が交流できる最小複合施設に作り替え、この地域の賑わいの創出を目指しています。小さい動きが地域の思いが加わり創生へ
2	阪急電鉄株式会社	鉄道高架下を活用したまちづくりプロジェクト	阪急洛西口～桂駅間の総延長約1kmの高架下空間。長期的なまちづくりの視点で周辺エリア全体の価値向上や活性化を目指し、「ヒトとヒトをつなぐエキはマチの縁側」をコンセプトに新たなコミュニティが生まれるような場づくり
3	特定非営利活動法人 向島学会	防災とアートをつなげるまちづくりのプラットフォーム	墨田区向島地域。地元まちづくり協議会と連携して学際的な研究成果を地域に還元、アートプロジェクトの継続的な開催、雨水市民の会や向島オッテンゼン地区交流委員会などと国際的に発信している。
4	「鹿野の風」プロジェクト	「 里山まるごと 花と雑木による 木漏れ日計画 」	山口県周南市鹿野地区(旧鹿野町)。８年前から「木漏れ日計画」と題し街中に雑木を植え続け、街中にベンチの設置や里山オープンガーデン等の活動により「日本一のカフェの里」を目指す。
5	玉川学園地区まちづくりの会	住み続けられる坂と階段の緑豊かなまちを目指して	町田市玉川学園。2005年に制度化された発足の住みよいまちづくり条例に基づく街づくり市民団体、「住み続けられるまち」を提案しながら、地域の主要団体と連携して活動。
6	千住 Public Network	千住地域の空き家利活用と古民家複合施設「せんつく」	足立区千住。区内で最も空き家が多くく、区と民間が共同して本団体を設立。10年間空き家だった古民家を改修した「せんつく」を通した活動により、千住地域の生活圏に新しい地域コミュニティーをつくる。
7	株式会社 WaCreation/machimin	もしわたしが「株式会社流山市」の人事部長だったら	千葉県流山市。machiminは一人の市民の「やりたい」から都市経営を行う仕組み。代表がリクルート社で実践してきた経験を強みに、市民の「やりたい」を見立て地域に人と事業を輩出し続けている。
8	小山田 桜台 まちづくり 協議会	多世代が 交流 で きる「 公園 団地 」 を めざして	町田市。「一団地の住宅施設」の廃止と地区計画への移行に向けた計画案の策定、冒険遊び場の運営、団地センターの空店舗を活用し高齢者等の居場所づくりや子ども食堂の開設など、活動を展開。
9	まち 保育研究会	“まち保育”の提唱を通じた子育ちをまちづくりと捉える啓発・推進活動	“まち保育”は 子どもたちの生活をより豊かにするもの です 。 まちで育てることはまちが育つことにつながる として、その考え方の普及啓発と実践 の 伴 走 を 行っています 。
10	UIFA JAPON	防災まちづくり意識の普及啓発活動－写真展「被災から10 年UIFA JAPON の見た岩泉町復興への歩み」の巡回を通して	10 年にわたる被災地支援活動の間に会員撮影のが撮った写真の展示会全を国各地で実施。市役所・区役所のギャラリーや男女共同参画センターなどで行い、自分たちのまちづくりに関して考えるきっかけとする。
11	NPO 法人 燃えない 壊れない まち・すみだ支援隊	すみだの魅力と安心を包む「防災観光ふろしき」	墨田区は面積21%超が木造住宅密集地、ほぼ全域が海抜ゼロメートル地帯で、地震や水害の危険度が高い。子どもたちに災害のリスクと、自分を守る知恵を育むため、「防災観光ふろしき」で「防災学習」の普及啓発。
12	一般社団法人 トリナス	まちが育て、まちを育てる。まちの小さな「みんなの図書館」	静岡県焼津市。シャッター通り化が進む駅前通り商店街の空き店舗を活用し、完全民営・黒字経営の私設図書館「みんなの図書館さんかく」を開設運営。補助金には頼らない自律的な経営を行なっている。

■全まち 2021 真備分科会の報告（高鍋剛）

1.開催の趣旨、地区概要など

倉敷市真備町は、2018 年 7 月に発生した西日本豪雨により市街地が広範に浸水した。その後約 3 年が経過したが、他の災害被災地に比べて河川堤防や道路などのインフラや住まいなどの空間復興は順調に進んでいるかに見えた。この背景には、真備町の地域社会の特性が大きく関係していると考え、今回のセッションでは、大規模な災害に対して、既存のコミュニティ（組織）果たした役割、新たに生まれた組織や活動、さらには若い世代の考えに着目して開催した。

2.プログラム

復興って何だ？真備編「災害復興と地域力」

■日時：2021 年 8 月 28 日（土）13:30〜17:00

■会場：真備町ぶどうの家ブランチからオンライン配信

■プログラムオーガナイザー

津田　由起子氏（サツキ PROJECT 代表）

磯打　千雅子氏（香川大学 IECMS 地域強靭化研究センター准教授）

■プログラム

第 1 部：復興の全体像、既存のコミュニティの活動

第 2 部：被災後に生まれた組織と活動

第 3 部：これからの真備を語る

3.結果、主な論点、課題など

真備町では、倉敷市との合併前からの長い自治の歴史があり、その「地域力」が今回の早い復興の源になっていた。一方、災害を契機に次代を担う若い世代が中心となった活動が生まれ、真備町の地域力をさらにステップアップさせているように見える。

まず第 1 部では、既存のコミュニティが何を行ったかを振り返るセッションとして、真備町まちづくり推進協議会連絡会の中尾前会長と、真備船穂商工会前会長の守屋氏に話を伺い、既存の組織が地域に発生した問題を把握して共通し、直後の応急対応に大きな役割を果たしていたことが紹介された。

第 2 部では、被災後に新たにできた 3 つの組織の方々から話を頂いた。お互いさま・まびラボの多田氏からは、福祉系事業者連携して行っていた真備連絡会が被災後にまびラボとして一般社団法人化（まちづくり会社）され、分散して避難していた施設利用者への移動支援と生活支援サービスを始めたこと、川辺みらいミーティングの松本氏からは、子育て世代の親たちが中心となって、「災害にあっても逃げ遅れゼロ」にするための地域のあり方を考えた経緯が、サツキプロジェクトの津田氏からは、高齢者が逃げられる避難所機能付きアパートのプロジェクトについて紹介があった。

第 3 部は地域に未来を支える若者達（中学生、高校生、大学生）が登壇し、自らの経験をどう受け止め、今後の地域への思いを語ってもらった。

最後に、真備の良いところは？と聞かれたほぼ全ての登壇者が「人が優しいこと」と語ったのが印象的であったとともに、セッション全体を通して、地域の風通しの良さ、人格のあるリーダーの存在、柔軟な発想、行政との良い距離感など、まちづくりの極意を強烈に印象づけられたセッションとなった。

■全まち 2021 糸魚川分科会の報告（臂　徹）

1.開催の趣旨、地区概要など

新潟県糸魚川市の中心市街地では、過去多くの大火に見舞われてきたものの、その度に再建されてきた。

2016 年 12 月、約 80 年ぶりの大火を契機として、住民などを交えて熟考された復興まちづくり計画に基づき、住民や事業者の意向を踏まえ、平時の街の姿を大切にしつつ、災害に強い良質なハード整備が進められた。

一方で、これからはそのハードをいかに活用していくか、いわば「魂を宿す」取り組みが求められることに加え、既往の大火との違いは「中心市街地の衰退」が表層化しているという点であった。

そこで、本分科会では大火の状況と、それを踏まえた復興計画の工夫（整備段階で工夫された点、東日本大震災の復興計画から生かされた点など）を振り返りながら、これからのまちづくりについて、当事者の話を伺いつつ、議論を深める機会として実施した。

2.プログラム

復興ってなんだ？糸魚川編「継承と刷新 –衰退しつつあった中心市街地が大火に見舞われた後の話–」

■日時：2021 年 9 月 18 日（土）14:00 – 17:35

■場所：糸魚川市駅北広場キターレから配信

■プログラムオーガナイザー　小出 薫 氏

（株式会社 BASE968（駅北広場キターレ指定管理者））

■プログラム内容（3 部構成）

・ 糸魚川市大規模火災についてのあらまし

・ 発災後の復興計画とキターレの立ち上げ

・ これからの駅北地区の役割、周辺まちづくりとの連動

3.結果、主な論点、課題など

視聴数は最大 110 名、終始 70 名ほどであった。

第 1 部は火災のあらましについて、前消防署長の長野氏よりお話し頂き、自治組織の動きなどについて、発災当時を振り返った。長野氏からは「糸魚川大火は風害であった」という言葉があり、強風が被災規模を広げたこと、火災で初めて被災者生活再建法などが適用され、復興まちづくりが進められたことを紹介して頂いた。

第 2 部は UR の太田氏（発災後、糸魚川市へ出向）にリモートでご登壇頂き、第 1 期復興計画に基づく復興まちづくりについて、詳細をご説明頂いた。

第 3 部は地元でまちづくりに取り組む方々の行動の動機やこれからについてお話を伺ったのち、新潟工科大学の樋口准教授に総括コメントを頂いた。樋口准教授からはキターレについて、整備されたまちのネクストステップである①商業②賑わいづくり③まちなか居住の推進において担う役割の重要さに加え、被災を経験した地域にはある種の「抗体（辛い経験を経て次に活かす存在）」ができること、次に伝えるという意味でも存在の意義深さに対してのご指摘があった。

■今月の予定

①10 月 20 日（水）理事会

②10 月 20 日（水）日本都市計画家協会賞 1 次審査

③10 月 29 日（金）全まち部会